

2024年(令和6年)
1月11日 木曜日
第1935号

京都自動車新聞



3 京都労働局 物流施設を合同パト
4 2024 新春座談会 第2回
7 CNG車等のガス容器の点検改正
8 京自販・自販連京都 役員会を開催
6 ◀カー用品レポート 1月号

発行所 京都自動車新聞社 京都市伏見区竹田向代町51-5(京都自動車会館内) 電話(075)672-0552 ファクス(075)682-0205 メール access@kyotojidosha-np.jp

大型EVバス2台導入

脱炭素化社会実現むけ 環境保全対策強化

京都バス

京都バス(吉本直樹社長、京都市右京区)は大型EV(電気自動車)バス2台を導入し、環境保全対策を強化する。これまでハイブリッドバスの採用や、京都駅-大原間の運行を地下鉄と組み合わせることでCO2(二酸化炭素)排出量削減に努めてきたが、EVバスを取り入れることで対策をさらに進める考えだ。

EVバスはアルファバ社製を採用。車長1万4800ミリメートル、車幅2485ミリメートル、車高3260ミリメートル。最低地上高1355ミリメートルで、車両総重量は15730キログラム。総電力は296KW/H。フル充電に必要な時間は6時間で、航続距離は240キロメートルという仕様。高野(同市左京区)、嵐山(同市右京区)の両営業所に1台ずつ配備し、1月から実証運行を重ねていき運行経路などを具体化させる方針。12月16日に大原のわい

になる。運行を重ねるEVの力を最大限発揮するための知恵を集めていく。1、2台からのスタートだが、チョウの羽ばたきが歴史を動かすようにカーボンニュートラルの実現に少しずつ近づいていきたい。これからも環境に優しい京都バスをアピールするとともに、安心・安全、快適輸送を目指すし、地域に不可欠な公共交通機関としての使命を果たしていきたい」と抱負を述べた。

近畿運輸局自動車交通部の北川健司部長は「環境と観光を通じた地域活性化が大変重要。文化、環境のまちづくりの上でEVバスは意義深い。観光客や一般市民にオオムラサキが認知され、利用されることを期待する」とエールを送った。12月23日には「e-ア



オオムラサキ号(上)とe-アラシヤマ号

嵐山駅前には発車時刻30分前から列ができてはじり、乗車開始間もなく、乗客はすべいっばいに。乗客はイベント会場となった菫蒲谷池大駐車場までの30分間、EVバスの力強さや静音性、車窓から見える京都市内の町並みを眺め移動した。到着後は、移動式サウナバス「サバスの入浴体験のほか、たき火キャンプ体験、音楽の演奏などもあり、満天の星の下、キャンプファイヤーの明かりを囲みながらイベントを満喫していた。

救助隊輸送にバス提供

能登半島 府内の貸切バス4社

石川県能登地方を震源とし発生した能登半島地震に伴う人命救助活動等を支援するため、京都府バス協会(鈴木一也会長)では、府危機管理部署災害対策課の要請に基づき会員事業所の貸切バス4台を提供した。

京バス協の竹内哲也専務によると、2日の午前10時56分と同課から緊急要請が入り、貸切委員会の阿辻康雄委員長らに連絡。ヤサカ観光バス(衆田晃稔社長、京都市南



区)、帝産観光バス(飯尾一重社長、東京都品川区)、久美浜観光バス(小國徳人社長、京丹後市)の4社と調整がついた、という。

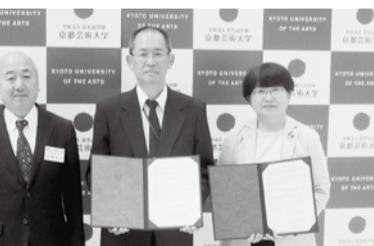
被災地に向け京都市消防活動総合センターを出發

川島珠洲市で情報収集や人命救助活動を行う隊員を乗せて、京都市南区の市消防活動総合センターおよび、福知山市の市消防本部を4日の午前9

時に出發。北陸自動車道の南条サービスエリアで合流し、石川県穴水町の小学校や、のと里山空港まで移動した後、地震発生直後に出勤した隊員を連れて帰ってくる予定。4日、同センターで実施された緊急消防援助隊派遣の出發式で、市消防局広域消防連携・救急対策担当局長の坂本昌也氏は「たくさんの方が皆さんの救出を待っている。持っている力を十分発揮して一人でも多く助け出すことを期待している」と激励した。

隊員は飲料水やアルファ米を積み込んだ後、現地に向け出發した。京都市消防局によると、同センターからは京都市が24隊83人、府が20隊72人、全体では延べ49隊173人が出勤した。

長が被災地に向かう運転手と経路や現地での注意点などについて念入りに打ち合わせするとともに、竹内専務も励ましの言葉を贈った。7日にも第3次派遣として5台の貸切バスを提供。阿辻委員長は「バス協会としてしっかり要請に応えていきたい。一人でも多くの方が助かることを祈っている」とコメントした。



京都市消防局は12月20日、京都芸術大学と自動車関係業界の課題解決に向けた連携協定を結んだ。

京運支局/京都芸大 自動車業界の課題解決むけ協定

京運支局は12月21日に実施するバス魅力発信イベントをプロデュース。バス会社の人材確保対策をサポートする。竹内専務も「バス業界の人手不足は危機的な状況。両者のバックアップは頼もしい。イベントでは、低賃金、長時間労働といった業界イメージを払しょくしたい」と抱負を語った。

協定式には、同大学の吉川左紀子学長、鴨志田由貴芸術学部教授、京運支局の岡本昇支局長、木原健太・首席運輸企画専

門官(輸送・監査)、京都府バス協会(鈴木一也会長)の竹内哲也専務が出席した。

ブロードリーフの新しいクラウドはじまる
らくらく導入、かんたん操作。『日常業務の効率化』をサポート!
PC、タブレット、スマホ対応
必要な機能を自由に組み合わせ
月額契約のサブスク対応
顧客・車両・履歴管理
伝票作成業務
顧客アプローチ業務
株式会社ブロードリーフ www.broadleaf.co.jp
TEL 075-661-1050 FAX 075-661-1051